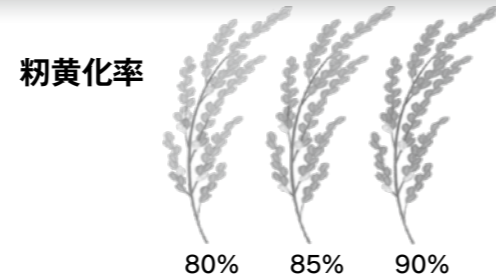


適期防除による斑点米カメムシ対策と 収穫間際までのこまめな水管理で

「たんなん米」の品質向上を!

○適期刈取りについて

- ◎籾黄化率90%・水分25%以下、及び刈取り時間帯は早朝を避け、朝露等が乾いた後に刈取りを開始してください。
- ◎特にあきさかりは、直立した青い葉の影に稲穂が隠れて黄化率が確認しづらい品種です。コシヒカリと同じ感覚で刈取り時期を判断せずに、田んぼの中に入り、水分を確認したり穂先の粒を観察したりして適期刈取りにつとめてください。



○乾燥調製について

- ◎天候の都合で早刈りした場合、青籾が多く水分のばらつきが大きくなりますので、温度を低めに設定したり、張り込む量を実際の設定量よりも少なめにしたりするなどして、できるだけ乾燥速度を落として水分ムラをなくすようにしてください。
- ◎乾燥時の毎時乾減率は0.6%~0.8%でゆっくり乾燥し、仕上げ水分を15.0%にします。なお、乾燥途中(籾水分18%程度)で4~6時間ぐらい乾燥を止め、一度調湿する二段乾燥も胴割発生軽減に有効です。
- ◎籾摺りは、肌ずれや籾付きにならないよう通風をするなどして十分放熱し、籾が常温になってから行いましょう。ロールがすり減っている場合の交換や調整も確実に行ってください。

○カントリー利用圃場の巡回について

ハナエチゼン・コシヒカリ・あきさかりについて、下記の日程にて圃場巡回を一齐に実施します。圃場カードが手元に届きましたら、巡回日までに利用圃場に設置していただき、圃場管理をお願いいたします。

なお、ラウンドアップマックスロードやプリグロックスなどの除草剤のかかった稲については決して刈取りしないようお願いいたします。

圃場巡回日：8月7日(水)

○次年度大麦作付予定地について

大麦の生育・収量は最初の排水対策、播種条件でほぼ決まります。排水対策が実施されていなければ除草剤の効果も期待できません。また、播種条件が悪ければ生育にも大きく影響してきます。刈取りが終了次第、早急に額縁排水溝、圃場内排水溝を設置し、排水対策につとめてください。

次年度大麦作付予定地について、ハナエチゼン作付跡など播種前までに乾く圃場での作付をお願いいたします。

圃場準備(排水対策)

- ・排水口は必ず額縁排水溝の底面より下になるように掘り下げ、スムーズに水が流れ落ちるようにする。
- ・額縁排水溝を水稻刈取り後できるだけ早く、25~30cmの深さの溝を設置してする。
- ・圃場排水溝の深さは25~30cm、間隔は3~5m(畝幅)とする。



トレンチャーによる額縁排水溝の設置



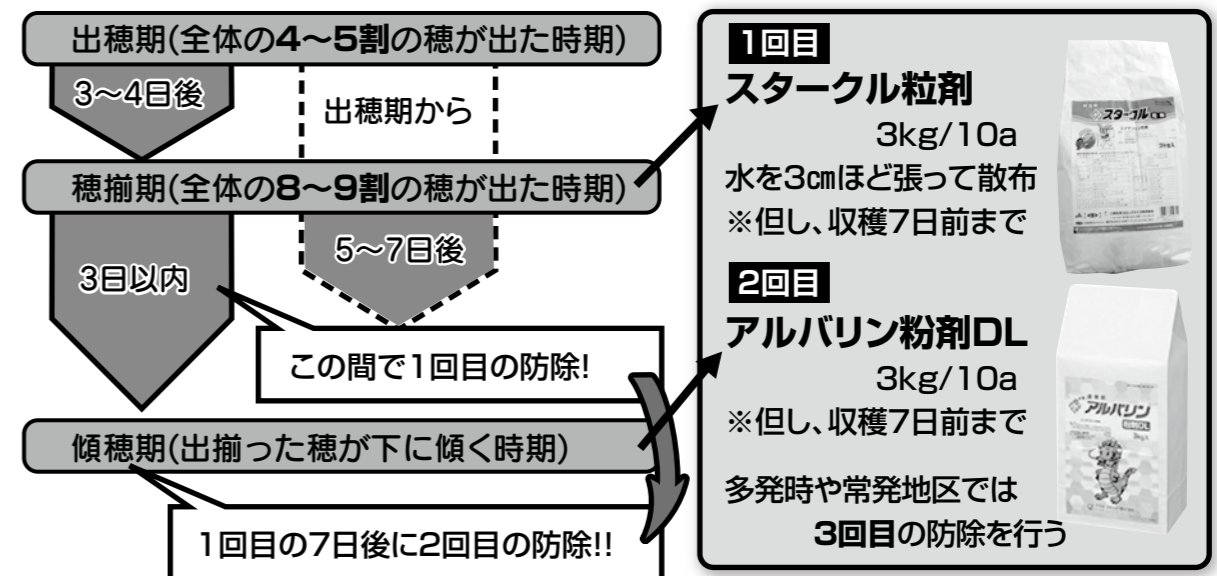
排水口が高い場合は、畦畔を切って排水する



○斑点米カメムシ防除について

薬剤防除の使用時期は、カメムシの侵入が多くなる出穂期と加害が始まる穂揃期(出穂7~10日後)が効果的です。カメムシは、日中の暑い時間帯は株元に潜んでいますので、防除は早朝か夕方、もしくは曇天時に散布しましょう。

~カメムシ防除体系~

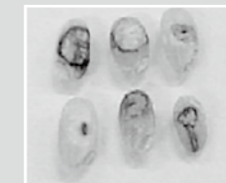


注意 コシヒカリの2回目の防除時は、ハナエチゼンの圃場に農薬が飛散しないように十分注意してください。

斑点米は等級格落ち要因のひとつです。

<カメムシ類の被害にあった米粒>

- ※玄米1,000粒中に
- 2~3粒...2等、4~7粒...3等、
- 8粒以上...規格外 となります。



【大型カメムシ類】



【小型カメムシ類】

○出穂期以降の水管理 - 農業用水の計画的利用と節水につとめましょう -

出穂期以降は、新根の発生がほとんどなくなるため、現在ある根を刈取り時期まで維持することが登熟向上や収量・品質の向上に向けて重要になります。収穫間際までこまめな水管理で登熟向上を図りましょう。

- 間断通水を継続し、根の活力を維持する。
なお、出穂期から成熟期までの登熟期間が高温(日平均気温27℃以上)で推移する場合は、未熟粒や胴割粒の発生を助長するので、間断通水の間隔を狭めるなど気象や圃場条件に応じた水管理を実施する。
- 台風の接近や通過が予想される場合は、事前に圃場への入水を実施し、フェーン現象による被害の軽減を図る。(台風通過後は速やかに排水する)
- 通水は夕方から朝方とし、根の健全化につとめる。(日中は高温のため)
- 天候の経過を見ながら、収穫間際まで間断通水を実施する。(早期落水厳禁)
(早期落水は、“胴割粒”や“未熟粒”が発生し、品質低下を招きます)